

第1学年 道徳

【役割演技などを行い、登場人物の心情について考えることを通して、困っている人を思いやることの大切さに気づき、相手のことを考えて、進んで助けることについて思いを深める姿】をイメージした授業

二本松北小 野地 由美子

1 本單元における夢中になって学ぶ姿

時間	場面	学習活動（夢中になって学んでいる姿）	資質・能力等
1	考える 対話する	学級活動「学級のめあてを話し合おう」 どんな学級にしたいか、自分の意見を 発表したり、友達の意見を一生懸命聞い たりしている。	・よりよい学級になるために、 どうすればよいか考えようとし ている。
2 本 時	考える 対話する	道徳「くりのみ」 登場人物の役割演技を通して、困っ ている友達に対する行動を多面的・多角 的に考え、互いに助け合うことの大切さ について考えている。	・身近な友達と仲よく活動し、 困っているときには互いに助け 合うことについて思いを深める ことができる。
3	考える 対話する	道徳「二わの小鸟」 動作化を通して、相手の気持ちに寄り 添って考えながら、友達の気持ちを考え て、行動することの大切さについて考え ている。	・相手の気持ちを考えて、行動 することの大切さに気づくこと ができる。
4	対話する 習得する	生活「いっしょにあそぼう」 身近な自然物などを使い、自分たちで 工夫して作ったおもちゃを用いて、友達 と一緒に遊び方を工夫し、みんなで遊び を楽しんでいる。	・相互の思いを大切にしながら、 友達と仲よく遊ぶようとして いる。
5 ～ 7	対話する 習得する	学級活動「お楽しみ会をしよう」 友情関係を深めるために、相互の思い を大切にしながら計画を立てたり、準備 をしたりしてお楽しみ会に向けて協力し ながら活動している。	・学級全員が楽しむことができ る内容を考えて、友達と協力して 活動している。

2 本時における研究の視点

**視点Ⅰ【見方・考え方を働かせながら
学びを自分事として捉える指導の工夫】**

① 自分事として捉えるために、友達との関わりにつ
いて今までの自分を振り返る場を設定する。

○ 主題に対する関心を高め、学習に臨むことができ
るよう、事前に行ったアンケートの結果を提示する。



○ 助け合うことのよさについて、経験を基に話
ができるように、日常のエピソード写真などを
提示して、子どもたち同士が助け合っていた場
面を想起させる。



② 役割演技を行い、きつねの心情に自分を重ね
て考えることで感じたことを話し合わせる。

○ 役割演技では、きつね役の児童の多様な意見
を引き出せるように、教師がうさぎ役となり、
児童への問い返しなどを行う。



視点Ⅱ【学びの連続性につながる振り返り】

<振り返りの視点>

友達と一緒に活動して楽しかったことや、
友達と助け合ってよかったことなど自分の経
験を振り返りながら、これからの生活の中で
友達が困っていたときにはどんなことができ
るかについて自分の言葉でまとめさせる。

<児童の振り返りから>

- ・ たすけてあげると、あ
いてもじぶんのころも
あたたまる。
- ・ はなしをきいて、それ
からやさしくたすける。
- ・ あいてのころをか
んがえてあげる。

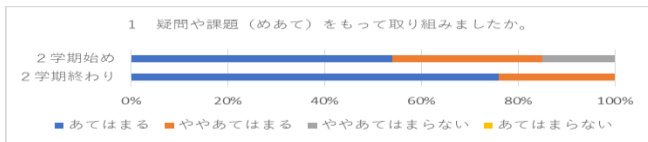


★板書を創る【本時のねらいに基づいた板書案の作成】



3 アンケートの結果から

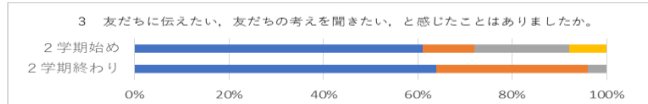
① 関心・意欲, 課題意識



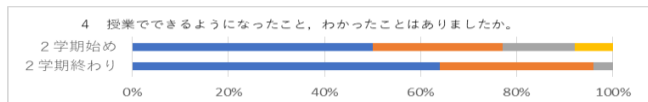
② 見通し



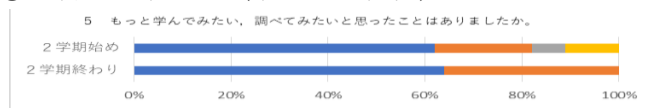
③ 話し合い・学び合い(協働の学び)



④ 振り返り



⑤ 新たな学びへ(学びの連続性)



4 考察【○成果 ●課題と改善策】

【視点Ⅰ】

- 導入では、「友達が困っていたとき、どうしますか」というアンケートから「助ける」や「話を聞く」という児童の答えを提示するとともに、「どんな心で関わってあげるとよいか」と問いかけ、本時で考えていくことについて焦点化を図ることができた。
- 今回のアンケートは簡単な内容だったため、その場で子どもたちに問いかけて問題意識をもたせてもよかった。

- 日常の写真やそのときの具体的なエピソードを紹介することで、これまでの生活を想起しながら、助け合うことのよさについて、自分との関わりで捉えることができた。
- 役割演技では、発達段階を考慮し、うさぎ役を教師が行い、演技した児童や周りの児童へ問い返しを行ったことで、子どもたちの多様な考えを引き出すことができた。
- 児童の感じた「うれしい」や「かなしい」といった気持ちに対して、教師がなぜ「うれしい」のか、「かなしい」のかを問い返すことで、自分の心情を豊かに表現させていきたい。

【視点Ⅱ】

- 教材で考えたことから、自己を見つめさせるために「きつねさんのように、友達に助けてもらったことはありますか。」「うさぎさんのように、友達を助けてあげたことはありますか。」と問いかけた。教材と日常生活の自分をつなげる工夫をすることで、本時の道徳的価値の理解について、自分自身との関わりの中で深めることができた。

【その他】

- 教師による読み聞かせの前に、場面設定を確認したことで、児童が教材の内容を理解することに役立った。
- 場面絵を提示しながらどنگりを隠した場面について児童に心情を問いかけたことで、きつねの心情を想像して、共感している児童の姿が見られた。

実際の指導案はこちらへ